

治療から予防まで 薬局ができる地域医療への貢献



健康チェック&相談会の様子



血圧・血流測定



脳年齢測定

病気にならないようにアドバイスすることも薬局の大切な役割

現 在日本では、本格的な少子高齢化社会を前に、医療は「治療から予防へ」と大きな転換期を迎えています。その中で、薬局の在り方も薬物治療だけではなく、広く患者さまの健康を見守っていく存在へと変わろうとしています。アイセイ薬局では、このような世の中の動きを鑑みて、薬局ができる地域医療への貢献の一つとして、「健康チェック＆相談会」というイベントを2012年より継続して開催しています。「健康チェック＆相談会」では、高度に自動化された測定機器でさまざまな検査項目の測定を行い、その結果をもとに、受診科目のお薦めや重篤化（悪化）・合併症の予防のために有効なアドバイスを全て無料で受けさせていただけます。もちろんお薬に関する相談も行っています。過去に実施した健康チェックの種類は全15項目。チェック後のデータは、数値の見方や基準値などが説明されているファイルにまとめられ、自身の健康状態を把握できるようになっています。*

健康チェックを受けた方にとっては、普段はなかなか気づきにくいことが数値として可視化されるので、自身の健康管理に対する意識が高まります。「健康チェック＆相談会」は、2012年6月から2018年6月までの間に通算132回実施し、約13,000名の方にご参加いただきました。アイセイ薬局は地域の皆さまの健康を薬局の立場からサポートし、

今後も地域の皆さまの健康生活に貢献する取り組みを推進してまいります。

*健康チェック＆相談会のプログラムはイベントによって変わります。

2018年4月以降の「健康チェック＆相談会」開催実績



- 2018/4/1 国領店(東京都調布市)
- 2018/4/1 勝どき店(東京都中央区)
- 2018/4/15 日進赤池店(愛知県日進市)
- 2018/4/21 濑田北店(滋賀県大津市)
- 2018/4/29 宇治大久保店(京都府宇治市)
- 2018/5/6 京成船橋店(千葉県船橋市)
- 2018/6/3 西大井店(東京都品川区)
- 2018/6/30 新百合ヶ丘店(神奈川県川崎市)
- 2018/7/1 千川店(東京都豊島区)

医療の大切さや薬局・薬剤師の社会的役割を子どもたちに伝えたい

ア イセイ薬局は、地域の子どもたちに医療の重要性や薬局・薬剤師の役割などを理解していただくことを目的として、未就学児・小学生を対象とした職業体験プログラム「こども薬局」を全国各地で開催しています。「こども薬局」は、2011年10月にアイセイ薬局豊岡店（兵庫県）からスタートし、これまでアイセイ薬局店舗で通算37回開催しました。これは、お薬に見立てたお菓子やジュースを使って、白衣を着て薬剤師になりきった子どもたちが調剤から投薬までの薬剤師業務を体験できるプログラムです。このプログラムは2015年7月には、経済産業省が後援する「第9回キッズデザイン賞～未来を担う消費者デザイン部門～」を受賞しています。近年は、近隣のクリニックとも連携して、子どもたちが医師のお仕事と薬剤師のお仕事を同時に体験できるイベント「こどもクリニック&薬局」と称して開催することが多くなっています。薬局が医師とより密接に連携し、地域の健康サポート機能を強化していくことが求められている中で、当社はこのようなイベントを通じて、地域住民の皆さんと医師・薬剤師との信頼関係を構築することに寄与しています。

アイセイ薬局「こどもクリニック・こども薬局」開催実績
2017年度、2018年度（～2018年8月末時点）

こども クリニック&薬局

- | | |
|-----------|-----------------|
| 2017/4/23 | 都島店（大阪府大阪市） |
| 2017/8/20 | 下総中山店（千葉県船橋市） |
| 2017/9/10 | 鈴蘭台店（兵庫県神戸市） |
| 2018/4/1 | 勝どき店（東京都中央区） |
| 2018/4/28 | 瀬田大江店（滋賀県大津市） |
| 2018/5/27 | 三ノ輪店（東京都台東区） |
| 2018/7/1 | 新百合ヶ丘店（神奈川県川崎市） |
| 2018/7/29 | 日進赤池店（愛知県日進市） |
| 2018/8/19 | 下総中山店（千葉県船橋市） |
| 2018/8/26 | 烏丸御池店（京都府京都市） |

実際の調剤機器の操作をしてみるなど、貴重な体験も



夏休みの時期での「こどもクリニック&薬局」の開催はたいへん好評で、多くの子どもたちで賑わいます。本年8月に開催した下総中山店（千葉県）や烏丸御池店（京都府）のイベントでは、参加予約が案内開始から数日で満員になりました。イベント当日は、参加する子どもたちは保護者の方とともに受付を済ませると、まず子供用の白衣を着用。この時点で皆さんまだ緊張した面持ち。まずは「医師体験」です。小学生が医師になり、患者さんに見立てた保護者を問診したり、聴診器で心音を確かめたり！もちろん本物の聴診器を使いますので、お母さんの心音が聞こえることにびっくり。このころには、かなり緊張もほぐれてきます。診察・診断の体験を終えると次は「薬剤師体験」に移ります。お薬の代わりにお菓子を使うとはいえ、本物の分包機を使うなど、とても本格的な体験です。そして、最後は、これも本物の投薬窓口から、患者さん役である保護者に服薬指導や投薬を行い一連の体験は終了となります。参加された子どもたちは、満足そうな様子だったり、ほっとした面持ちだったり。きっと、夏休みのたいへん良い思い出となつたことでしょう。（写真上は、イベントの様子）



薬剤師の仕事について説明

「まちの薬局・アイセイPresents 児童会館で自由研究」 8月22日 夏休みの小学生を対象とした薬剤師体験のご報告



調剤体験 重そう、クエン酸、塩を使ったバスボム（入浴剤）づくり

8月22日には、「こども薬局の出前イベント」とでもいいくらい「薬剤師体験イベント」を、西新小岩店（東京都）の近隣にある児童会館にて開催しました。これは児童会館（葛飾区子育て支援部育成課）主催の夏休みの小学生を対象としたイベントで、アイセイ薬局西新小岩店が協力して開催されました。当日は、最初に西新小岩店の薬剤師 坂巻茉里奈（さかまきまりな）と遠藤琢馬（えんどうたくま）が子どもたちにアイセイ薬局について紹介し、薬局内にある調剤機器や薬剤師の仕事などについて説明しました。続いて、お薬に関するクイズを楽しんだ後、調剤体験へと移りました。このイベントには地域の小学生31名が参加。「将来の夢はたくさんあるけど、薬剤師さんもいいな」といった感想も聞かれ、子どもたちにとっては貴重な体験となつたようです。今回の薬剤師体験イベントで登壇した西新小岩店店長 坂巻に話を聞きました。（3面へ続く）



体験後は「修了証」を
子どもたちに渡しました

処方せんがなくても気軽に立ち寄っていただけるような店舗にしたい

アイセイ薬局西新小岩店 坂巻茉里奈に聞きました!

このようなイベントは、地域の皆さんに薬局・薬剤師の仕事を知っていただくとともに、皆さんに薬局が「処方せんがなくても気軽に立ち寄れる場所」と認識して頂くことを目的として開催しています。イベントでは、はじめは子どもたちはワイワイ遊びに夢中でしたが、クイズや調剤体験がはじまると一転して真剣な表情になり薬剤師という仕事に関心を持って取り組んでいました。付き添いの保護者の方々からも、薬についての質問をいただいたり、薬局の仕事を知ることができたなどの感想もいただけて、私たちも大変嬉しい気持ちになりました。また、今回の取り組みを通して、薬局・薬剤師がどのような仕事なのか、まだまだ知らないということを実感したことも事実です。薬剤師の仕事を地域の皆さんに知っていただくためには、引き続き様々な努力が必要だと感じています。今後も、このような地域活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



お薬に関するクイズの様子

地域の皆さんにしっかり寄り添ってお勧めするのが 調剤薬局の物販のスタイル

ア イセイ薬局の各店舗では、調剤薬局店舗内の限られたスペースでOTC医薬品や健康補助食品、健康器具などを販売しています。こうした物販をする場合、販売商品の種類、販売価格の優位性に関して、ドラッグストアにかなわないと考えるのが自然でしょう。では、調剤薬局が物販を行う意義とは何でしょうか？ 今回は、愛知県岡崎市にあるアイセイ薬局柱(はしら)店の店長、宇野真太朗(うのしんたろう)に話を聞いてみました。柱店は規模こそ大きくはないものの、物販が好調の店舗の一つです。柱店のある岡崎市は医療・介護における多職種連携が進んでいる地域でもあり、市内に10店舗あるアイセイ薬局は地域の多職種と連携しながら地域医療に貢献する活動を活発に行ってています。

医師はじめ地域の様々な介護・医療スタッフと連携

聞き手

店長としてこの薬局の特徴はどんな点だと思いますか？

宇野

まず第一に、地域の中で気軽に何でも相談できる「かかりつけ薬局」になることを目指し、在籍する薬剤師が「かかりつけ薬剤師」として選んでもらえるように日々努力しています。近隣の内科・小児科の医師も「地域のかかりつけ医」を目指しておられるので、医院としっかりと連携した活動を心がけています。

柱店に来局される患者さまは、比較的高齢の方が多いこともあります。私たちも地域の多職種連携活動には積極的に参画しています。地域のケアマネージャーや地域包括支援センターとも頻繁に連絡を取りながら、在宅医療・認知症カフェなどの活動も行っており、講演会なども行っています。

聞き手

地域における健康サポートの拠点となるために考えていることはありますか？

宇野

調剤薬局や薬剤師は、地域の中で最も気軽に医療相談ができる存在であるべきだと思っています。ちょっとしたことでも気軽に相談できる「窓口」になることを目指しています。

物販を通じて健康サポート機能を発揮

聞き手

店舗で物販は積極的に行っているようですね。

宇野

物販を積極的に行っているということではなくて、薬局が“健康サポート機能”を追求していった結果、物品のお勧めにつながっているということだと思います。物販は患者さまとのコミュニケーションの一つの「結果」ですね。(4面へ続く)



柱店店舗スタッフの皆さん
(右が店長の宇野真太朗)

(3面から続く)

聞き手

具体的には、どのような取り組みをしているのですか?

宇野

たとえば、服薬指導の際の会話など、来局される患者さまとのコミュニケーションの機会を大事にして、健康サポートにつながるアドバイスやコンサルティングを積極的にするようにしています。

聞き手

具体的にはどのようにアドバイスをしているのでしょうか。

宇野

たとえば、お話の中で「たんぱく質をもう少し摂取した方が良いな」と思われる方には、そのようなアドバイスがすぐにできるように、私や当店の薬剤師、それに医療事務を行っているスタッフも、どのような食材にはどの程度たんぱく質が含まれているかを常に頭に入れてています。このようにすることで、食生活に関するアドバイスをスムーズにお伝えできます。そうしたアドバイスの一環として、例えばたんぱく質を摂取できるように栄養補助食品の紹介などへと自ずとつながっていきます。こうしたことを繰り返していることで、物販が自然に活性化していきました。調剤薬局は、他の物販チャネルに比べて、来局される患者さまと深く細かくお話しすることができます。ですので、よりの方に合った健康情報を提供することが可能です。

来局者一人ひとりにあった物販を

聞き手

調剤薬局では、一人ひとりの来局者とのコミュニケーションが何よりも大切なことだということですね。

宇野

そうです。これは、他の販売チャネルではあまり見られないスタイルだと思います。実は、患者さまが製品を購入される際に、購入を控えていただくよう促すケースもあります。先程のたんぱく質を例にとれば患者さまとの会話のなかで、たんぱく質は十分足りていると確認できれば、栄養補助食品などで現状以上の摂取は必要ありません。そのような場合は患者さまが希望したとしても、「こちらは必要ないですよ」とはっきりとお伝えします。こういうことも薬局の責任だと思っています。



柱店 物販コーナー

薬局は、決して「処方せんとお薬の交換所」という役割だけでなく、食生活や日常の運動など、健康のためのアドバイスもできなければいけません。来局されている患者さまの中には、薬剤師のお勧めに従ってウォーキングを始めたり、フィットネスジムに通い始める方もいらっしゃいます。私たちが皆さまの健康のためにできることは何でもしたいと思っていますので、どうか気軽に相談していただきたいですね。

アイセイ薬局での物販の販売アイテムは、数は限られていますが、裏付けの確かめられているアイテムを厳選しております。安心してアイセイ薬局の薬剤師にお声がけいただき、相談しながら物販コーナーをご利用ください。

9月 イベント開催スケジュール予定

日時：2018年9月17日（月）10時～15時

1. 会場：アイセイ薬局 さくらがわ店（茨城県桜川市高森字西飯島1023-3）※2018年10月1日開局予定
内容：内覧会、健康チェック＆相談会、縁日

日時：2018年9月24日（月）10時～15時

2. 会場：クリニックステーション瀬田大江（滋賀県大津市大江7-6-47）
内容：健康チェック＆相談会、子ども向け医師・看護師体験、クイズラリー

日時：2018年9月29日（土）14時～16時

3. 会場：アイセイ薬局 瀬田北店（滋賀県大津市大将軍1-17-7）
内容：健康チェック＆相談会

アイセイ薬局グループの施策に関するご質問や取材のご依頼は、下記連絡先にて承っております。

株式会社アイセイ薬局 コーポレート・コミュニケーション部

担当：霜（しも）・飯村（いいむら）

TEL：03-3240-0994 E-mail：koho@aisei.co.jp

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビルディング